

# 中部圏広域地方計画 推進管理について

## 中部圏広域地方計画協議会有識者会議

---

2026年(令和8年)4月23日

中部圏広域地方計画推進室

## 【計画原案（案）における記載】

### 第4部 計画の推進等

#### 第2章 計画の推進管理等

#### 第3節 計画の推進管理

本計画の実施に当たっては、その評価・見直しを効率的かつ効果的に実施していくため、プロジェクトの進捗管理に資するモニタリング指標に基づき、本計画のモニタリングを適切に行う。具体的には、プロジェクトの着実な推進に向けて、プロジェクトごとに担当機関を定め、中部圏広域地方計画協議会において、**毎年度、各プロジェクトにかかる各種施策の進展・具体化、進捗状況を検証**するとともに、その推進に向けた課題への対応等について十分な検討を行う。各種施策で設定されている数値目標やその更新を共有し、検討結果を踏まえ、本計画のより一層の推進を図る。また、中部圏におけるモニタリングの結果や全国計画に係る政策評価の結果等に応じ、個々の施策・プロジェクトや本計画の見直しを行うなど必要な措置を講じる。

## 【フォローアップの体制】

### ○広域連携プロジェクトの推進状況

- ・モニタリング指標や各構成機関の取組状況を事務局にて毎年整理

### ○各施策の進捗状況にかかる課題

- ・各プロジェクトに担当機関を設け、取組状況の検証や今後の対応などを事務局と協同して検討

## 【フォローアップに向けた今後の予定】

○フォローアップ指標、体制について、中部圏広域地方計画WGで確認（令和8年度）

○フォローアップの公表資料は、中部圏広域地方計画協議会（幹事会）で確認

○公表時期は次年度（初回は令和9年度）の12月頃を予定

## ■実施内容

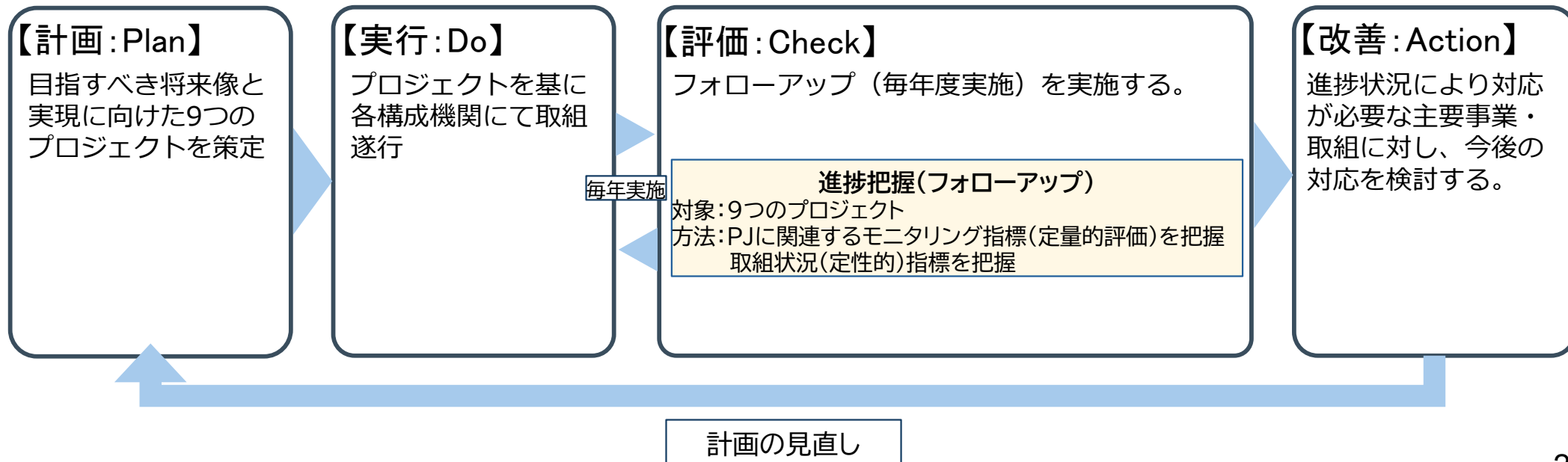
- 中部圏を取り巻く内外の情勢変化や動向に柔軟に対応しながら、PDCAサイクルによる進捗管理を行い、計画の実行性を高め、着実な推進を図る。
- 進捗管理は、毎年のフォローアップにより行う。
- フォローアップの内容は以下のとおりである。

○フォローアップ：9つのプロジェクトを対象にモニタリング指標（定量的評価）と各構成機関の取組状況（定性的評価）により毎年行う。取組の評価を行い、取組の進捗状況を確認する。

## ■評価対象期間



## ■PDCAサイクルに則った進捗管理



【将来像】生活の質が高く持続的に成長する強靱な中部圏

## 目標

### 目標1:すべての地域が 魅力あふれる生活圏の創出

人

#### 目標1-1活力ある地方の創生

- ①人を惹きつける固有の魅力の創出
- ②地域産業の活性化による地域力向上
- ④地域を支える人材の育成・確保 ⑤安心して暮らせる社会の形成 ⑥多様な主体による共助社会づくり
- ③観光・交流の促進と賑わいの創出による地域力向上

#### 目標1-2暮らしやすい地域生活圏の形成

- ①誰一人取り残さないためのデジタルの徹底活用とリアルとの融合 ③快適で安全・安心な生活環境の構築
- ②持続可能な生活圏の形成
- ④関係人口の拡大・深化

### 目標2:ものづくりを礎に世界をリード し続ける産業への進化

産業

#### 目標2-1ものづくりの高付加価値化と新産業の創出による産業の強化

- ①中部圏の戦略産業の強化 ②高度なものづくりの活用による新たな産業の創出 ③新たなビジネスモデルの展開による付加価値の創出 ④中堅・中小企業の振興

#### 目標2-2持続可能な産業の構築

- ①持続可能な産業構造への転換 ②産業を担う人材の確保・育成

### 目標3:日本中央回廊による 効果を最大化する圏域づくり

圏域

#### 目標3-1シームレスな拠点連結型国土の形成

#### 目標3-2リニア中央新幹線開業による新たな価値の創造

- ①国際競争力のある新たな圏域構造への転換 ②リニア名古屋駅を核とした圏域づくり ③リニア中間駅を核とした地域づくり ④東海道新幹線沿線エリアの新たなポテンシャルを活かした地域づくり

#### 目標3-3交通ネットワーク強化による広域的波及

#### 目標3-4国際大交流時代を拓く観光・交流

- ①選ばれる国際交流圏の形成 ②国内外の観光・交流の促進
- ③国際的な広域周遊ルート強化 ④クルーズの振興、普及

### 目標4:自然の恵みの保全と活用

自然

#### 目標4-1自然環境と健全な生態系の保全・再生

#### 目標4-2カーボンニュートラル社会の実現による持続可能な地域づくり

#### 目標4-3適切な国土保全

- ①健全な循環型国土の構築 ②物質循環の安定的確保による地域循環共生圏の形成 ③人口減少下における国土の利用・管理

### 目標5:強靱な国土の構築

基盤

#### 目標5-1南海トラフ地震に備えた強靱な国土の構築

#### 目標5-2頻発化、激甚化する自然災害とあらゆるリスクへの対応

- ①自然災害等への対応 ②都市の防災・災害対策の推進
- ③産業の防災力強化 ④広域的な連携による支援体制の強化

#### 目標5-3ネットワークの多重性・代替性の確保、首都圏バックアップ体制の強化

#### 目標5-4インフラの維持・整備・活用

- ①戦略的なメンテナンスの推進 ②地域の守り手としての建設業の強化

## 広域連携プロジェクト

### 1.暮らしやすさ地域力向上や地域生活圏形成PJ

### 2.快適・安全安心な生活環境実感PJ

### 3.ひとづくり・つながり構築PJ

### 4.国土強靱化PJ

### 5.環境・国土サステナビリティPJ

### 6.世界をリードする産業進化PJ

### 7.日本中央回廊まんなか圏域拡大PJ

### 8.新時代の観光交流促進PJ

### 9.他圏域連携PJ

## 施策群

#### ①人を惹きつける地域力向上

#### ②地域生活圏の形成

#### ③地域産業の活性化

#### ④農林水産業・農山漁村の活性化

#### ①利便性と移動の質的向上

#### ②安全安心な生活環境構築

#### ③デジタル活用基盤の強化

#### ①誰もが輝き活躍する社会の形成

#### ②多様な人材を育てる社会の形成

#### ③人々がつながりあう社会の形成

#### ①南海トラフ地震への備え強化

#### ②大規模自然災害への備え強化

#### ③都市の防災力強化

#### ④産業の防災力強化

#### ⑤ネットワークの多重性・代替性確保

#### ⑥太平洋・日本海二面活用による広域的なバックアップ体制強化

#### ①ネイチャーポジティブ推進

#### ②カーボンニュートラル社会の実現

#### ③人口減少下の国土利用・管理

#### ④国土基盤の高質化

#### ①新産業とイノベーションの創出

#### ②産業構造の転換

#### ③戦略産業の強化

#### ④中堅・中小企業の振興

#### ⑤産業を担う人材の育成・確保

#### ⑥産業を支える基盤の強化

#### ①リニア名古屋駅を核とした圏域形成強化

#### ②リニア中間駅を核とした圏域形成強化

#### ③東海道新幹線エリアの圏域形成強化

#### ④三遠南信エリアの圏域形成強化

#### ⑤越境連携による都市圏拡大強化

#### ⑥日本中央回廊の効果を最大化する交通基盤強化

#### ①国際的な広域観光交流の強化

#### ②太平洋・日本海広域観光交流の強化

#### ③地域の魅力を活かした観光交流の強化

#### ①大規模災害を見据えた圏土の強靱化

#### ②日本中央回廊形成を見据えた広域ネットワークの強化

#### ③太平洋・日本海交流連携の強化

# モニタリング指標について(1)

・中部圏広域地方計画の策定後に、進捗状況を把握するために、計画推進の柱となる広域連携PJ毎に指標を設定する。指標は、プロジェクト内の施策群毎に少なくとも一つ定量的な指標を設定する。その上で、広域連携PJ毎の代表指標を設定する。

## ■プロジェクト別モニタリング指標(案)

※現行の基本方針モニタリング指標

広域連携PJ	施策群	モニタリング指標
PJ1 暮らしやすさ地域力向上や地域生活圏形成プロジェクト	1. 人を惹きつける地域力向上	①個別事業の取組状況により進捗を評価
	2. 地域生活圏の形成	②小さな拠点形成数(小さな拠点の形成に関する実態調査)※
	3. 地域産業の活性化	③・六次産業化・地産地消費に基づく事業計画の認定数(農林水産省)
	4. 農林水産業・農山漁村の活性化	④農業産出額(生産農業所得統計)
PJ2 快適・安全安心な生活環境実感プロジェクト	1. 利便性と移動の質的向上	①地域公共交通計画の取組団体数(国土交通省) ①乗り合いバス走行キロ※
	2. 安全安心な生活環境構築	②個別事業の取組状況により進捗を評価
	3. デジタル活用基盤の強化	③地方公共団体における行政手続等のオンライン利用率
PJ3 ひとづくり・つながり構築プロジェクト	1. 誰もが輝き活躍する社会の形成	①地域幸福度(Well-Being)生活満足度(SCI-Japan) ①70歳以上まで働ける企業の割合※
	2. 多様な人材を育てる社会の形成	②地域おこし協力隊員数(地域おこし協力隊設置状況)
	3. 人々がつながりあう社会の形成	③年齢層別転出・転入超過数(住民基本台帳人口移動報告) ③特定居住促進計画数
PJ4 圏土強靱化プロジェクト	1. 南海トラフ地震への備え強化	①事前復興まちづくり計画策定状況(国土交通省)
	2. 大規模自然災害への備え強化	②自主防災組織活動カバー率※
	3. 都市の防災力強化	③防災指針を含む立地適正化計画の策定数(国土交通省)
	4. 産業の防災力強化	④個別事業の取組状況により進捗を評価
	5. ネットワークの多重性及び代替性確保	⑤個別事業の取組状況により進捗を評価
	6. 太平洋・日本海2面活用による広域的なバックアップ体制強化	⑥個別事業の取組状況により進捗を評価
PJ5 環境・国土サステナビリティプロジェクト	1. ネイチャーポジティブ推進	①河川BOD,湖沼COD環境基準達成率(環境省)※
	2. カーボンニュートラル社会の実現	②温室効果ガス排出量(環境省) ②低公害燃料車保有車両数※
	3. 人口減少下の国土利用・管理	③荒廃農地面積
	4. 国土基盤の高質化	④スマートインターチェンジ開通箇所

## ■計画のモニタリング指標について

・中部圏広域地方計画の策定後に、進捗状況を把握するために、計画推進の柱となる広域連携PJ毎に指標を設定する。指標は、プロジェクト内の施策群毎に少なくとも一つ定量的な指標を設定する。その上で、広域連携PJ毎の代表指標を設定する。

## ■プロジェクト別モニタリング指標(案)

※現行の基本方針モニタリング指標

広域連携PJ	施策群	モニタリング指標
PJ6 世界をリードする産業進化プロジェクト	1. 新産業とイノベーションの創出	①特許登録数(特許行政年次報告書)
	2. 産業構造の転換	②固定買取制度における再生可能エネルギー導入量(固定価格買取制度情報公表用HP)
	3. 戦略産業の強化	③個別事業の取組状況により進捗を評価
	4. 中堅・中小企業の振興	④個別事業の取組状況により進捗を評価
	5. 産業を担う人材の育成・確保	⑤個別事業の取組状況により進捗を評価
	6. 産業を支える基盤の強化	⑥外貿コンテナ取扱量(港湾別コンテナ取扱貨物量)
PJ7 日本中央回廊まんなか圏域拡大プロジェクト	1. リニア名古屋駅を核とした圏域形成強化	①個別事業の取組状況により進捗を評価
	2. リニア中間駅を核とした圏域形成強化	②個別事業の取組状況により進捗を評価
	3. 東海道新幹線エリアの圏域形成強化	③首都圏・近畿圏からの移動者数(貨物・旅客地域流動調査)
	4. 三遠南信エリアの圏域形成強化	④個別事業の取組状況により進捗を評価
	5. 越境連携による都市圏拡大強化	⑤三大都市圏の県内総生産総計(県民経済計算)
	6. 日本中央回廊の効果を最大化する交通基盤強化	⑥クルーズ船寄港回数※
PJ8 新時代の観光交流促進プロジェクト	1. 国際的な広域観光交流の強化	①訪日外国人延べ宿泊者数(宿泊旅行統計調査)※ ①国際コンベンション開催件数※ ①空港の乗降客数(国際線)(空港管理状況調書)
	2. 太平洋・日本海広域観光交流の強化	②太平洋・日本海間県別旅客流動(貨物・旅客地域流動調査)
	3. 地域の魅力を活かした観光交流の強化	③延べ宿泊者数(宿泊旅行統計調査)
PJ9 他圏域連携プロジェクト	1. 大規模災害を見据えた圏土の強靱化	①個別事業の取組状況により進捗を評価
	2. 日本中央回廊形成を見据えた広域ネットワークの強化	②首都圏・北陸圏・近畿圏からの移動者数(貨物・旅客地域流動調査)
	3. 太平洋・日本海交流連携の強化	③太平洋・日本海間県別旅客流動(貨物・旅客地域流動調査)再掲

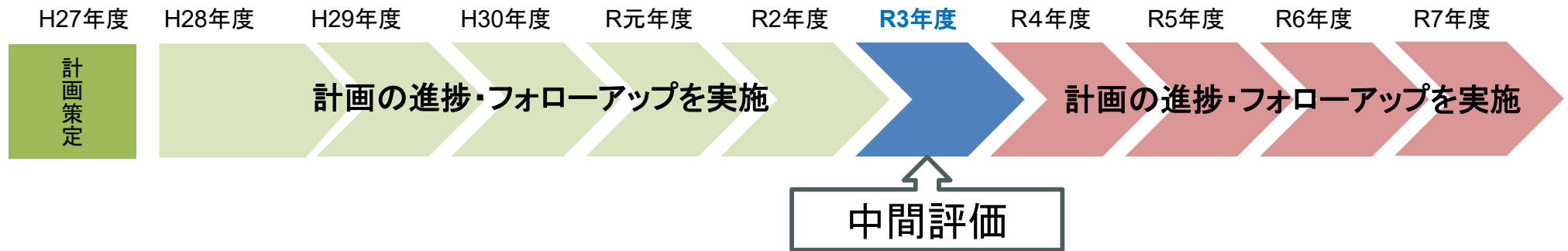
## (参考)第二次中部圏広域地方計画の推進管理

---

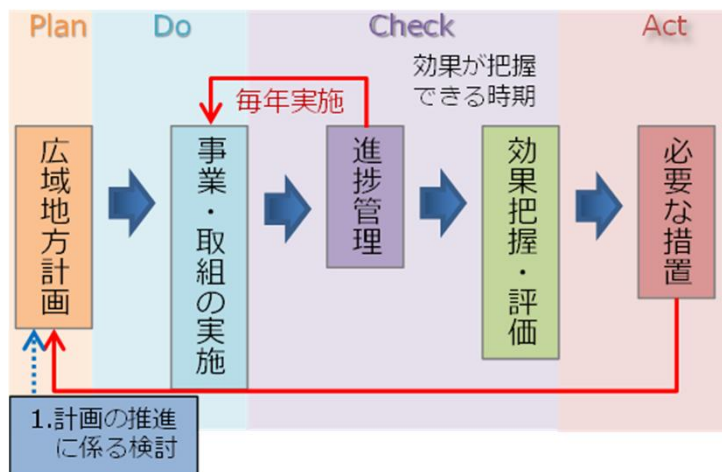
# 現行計画の推進管理について(1)

- 中部圏広域地方計画において、今後10ヶ年にわたり重点的に取り組む10のリーディングプロジェクトについて進捗管理を行いつつ、取組効果の把握・評価を行った上で必要な措置を講じていく。
- 実効性を高め着実な推進を図る観点から、計画（plan）・実行（do）・評価（check）・改善（act）のプロセスによるフォローアップを毎年実施。

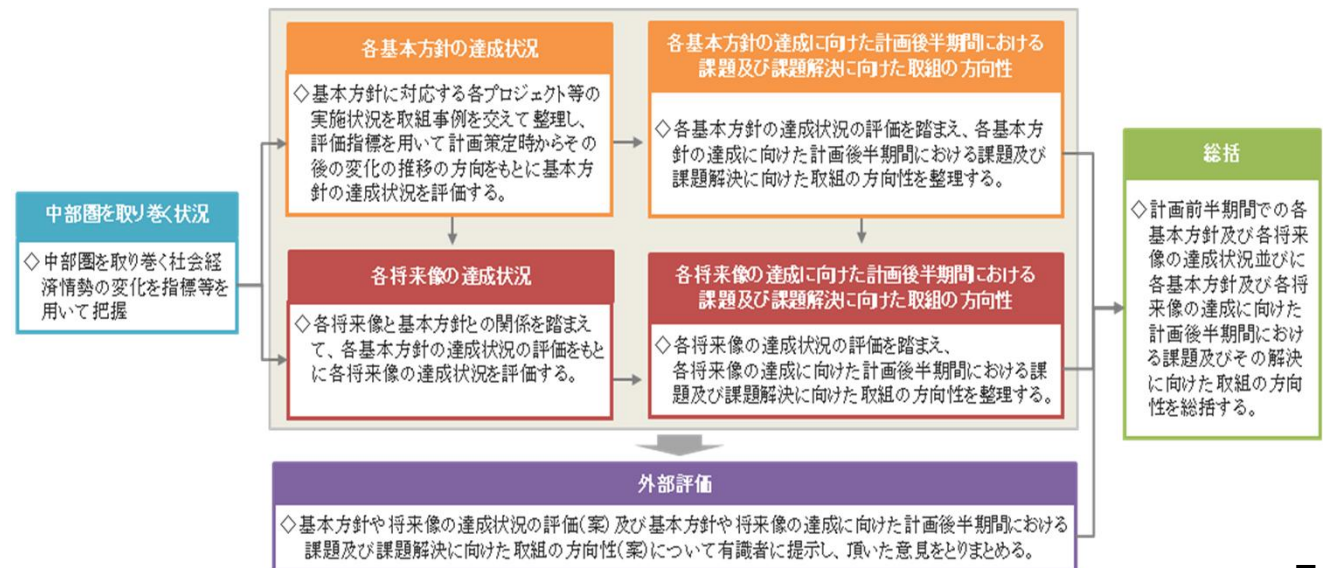
## 【評価対象期間】



## 【評価実施フロー】



## 【中間評価の実施方法】



## 【計画の進捗・フォローアップ】

- 各構成機関の取組をプロジェクト毎に調査票にとりまとめ(毎年約1000件程度)
- 中部圏を取り巻く情勢として基本方針毎に指標を定め、経年変化等を分析し、参考資料として整理

### ●コラム(取組例)

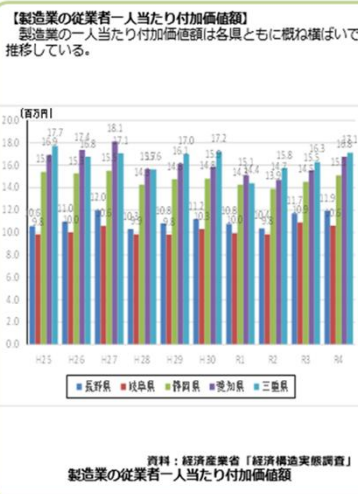
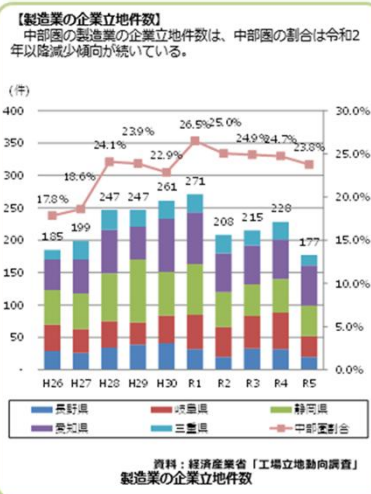
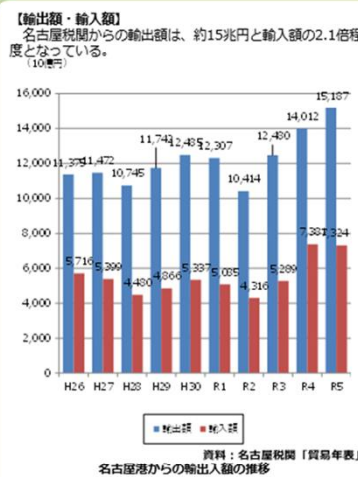
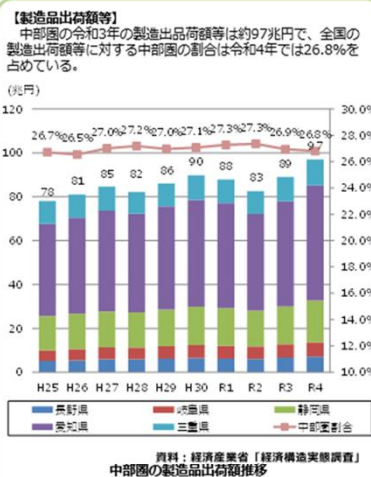
- ものづくり中部・世界最強化プロジェクト
- 1-1(1)①【高度運転支援システムの実用化】

取組事例名	自動運転の社会実装に向けた取組
機関名	愛知県
今年度の取組内容	<p>●内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自動運転の社会実装を目指し、名古屋市内においてエリアを拡大して自動運転車両の定期運行を実施するとともに、中部国際空港へアクセスする高速道路での自動運転高速バスを目指す全国初の実証と、愛・地球博記念公園(モリコロパーク)での園内バスの自動運転化を見据えた運行実証を行う。</li> <li>実施地域                     <ul style="list-style-type: none"> <li>定期運行 名古屋市(STATION Ai~名古屋駅付近~栄)</li> <li>実証実験 中部国際空港へアクセスする高速道路(知多半島道路等) 長久手市(愛・地球博記念公園)</li> </ul> </li> </ul> <p>●今後の予定・方向性</p> <p>名古屋市内においてオンデマンド方式による自動運転車両の運行を実施するほか、高速バスの自動運転化を目指す実証実験を中部国際空港へアクセスする高速道路において引き続き実施する。また、愛・地球博記念公園における園内バスの自動運転化を見据えた運行実証および定期運行に向けた環境整備を実施する。</p>
イメージ図	<p>自動運転車両(名古屋市)</p> <p>自動運転車両(高速道路)</p>

## <参考資料 中部圏を取り巻く情勢(例)>

### 基本方針1 世界最強・最先端のものづくりの進化

#### 1. ものづくり中部・世界最強化



- 基本方針1 世界最強・最先端のものづくりの進化
- 製造品出荷額等
  - 輸出額、輸入額
  - 製造業の企業立地件数
  - 製造業の従業者一人当たり付加価値額

- 基本方針2 スーパー・メガリージョンのセンター、我が国の成長を牽引
- 訪日外国人都道府県別訪問数
  - 訪日外国人延べ宿泊者数
  - 国際コンベンション開催件数
  - 中部圏のクルーズ船寄港回数

- 基本方針3 地域の個性と対流による地域創生
- 1人当たりの県民所得
  - 県内総生産
  - 小さな拠点形成数
  - 中部圏の乗合バス走行キロ

- 基本方針4 安全・安心で環境と共生した中部圏形成
- 防災拠点となる公共施設等の耐震率
  - 自主防災組織カバー率
  - 低公害燃料車保有車両数
  - 水質測定結果(環境基準達成率(COD))

- 基本方針5 人材育成と共助社会の形成
- 労働力人口率
  - 合計特殊出生率
  - 70歳以上まで働ける企業の割合
  - 障がい者実雇用率